

■まちづくりニュースを創刊します！

大泉学園駅周辺は、再開発事業によってゆめりあ1、2が完成し、大泉街道（補助156号線）などの道路整備も進み、大きく街並みが変化してきています。

こうしたなか、大泉学園駅北口地区では、私達地域の住民が主体となって「まちづくり懇談会」を発足し、より魅力的な街にしていくため、まちづくり活動を進めています。

これまでに懇談会で話し合った内容を地域の方々に知っていただくために、このたび『まちづくりニュース』を創刊しました。

■まちづくり懇談会ってなに？！

大泉学園駅北口地区まちづくり懇談会とは、「アニメのふるさと」という大泉学園の特色を生かした地域の活性化、子供からお年寄りまで安心して住める住環境の実現に向けて、まちづくり計画を検討することを目的に、以下の団体で構成しています。

構成団体：東大泉商栄会、東大泉仲町銀座商店街振興組合、駅前通り親和会
東大泉和泉町会、東大泉仲町町会、みやの町会、東大泉中村町会



■これまでの経緯

昨年秋に、大泉学園駅北口地区のまちづくりを推進していくにあたり、「大泉学園駅北口地区まちづくり懇談会」準備会を発足させました。

その後、月1回程度の話し合いを進めています。



《懇談会の様子》



ゆめりあ1



地元のみなさんと一緒に、要望し完成した横断歩道、信号機

学園通りの桜並木



北口地区の良い点、悪い点を見つけ、
地区の現状について整理しました

■地区の良い点

- 駅の乗降客数が多い
- バスの路線数が多い
- バザールのような買い物しやすい商店街
- 周辺に資源が多い
 - ・東映アニメーション、Tジョイ
 - ・桜並木
 - ・牧野記念庭園、屋敷林、社寺
 - ・白子川
- 歩道やバリアフリーなどは徐々に充実

■地区の悪い点

- 再開発以降、車がうまく流れなくなった
 - ・交通規制が複雑でわかりにくい
 - ・大泉街道とアンダーパスの交差点が渋滞
 - ・大泉妙延寺前の出口交差点が渋滞
 - ・区道22-152、22-150が通りにくい
 - ・街区内の十字路が通りにくい
 - ・踏切の渋滞
- バスターミナルやロータリーが無くて不便
- 放置自転車が多い
 - ・駐輪場が足りない、使いにくい
 - ・土日の取り締まりがない
- 歩行者が危険な場所がある
 - ・横断歩道がない場所がある
 - ・歩道が狭い(旧大泉街道)
 - ・抜け道になっている道路がある(地区外)
- 旧大泉街道沿いの活気が無くなっている
- トイレ等の設備が少ない
- まち中に緑や憩いの場が少ない

■地区の現状のまとめ

◎交通渋滞や複雑な交通規制、駐輪場の不足などにより、周辺に住む人々が訪れにくいまちになっている。

◎駅の乗降客数は多いが、まちにとどまらず、素通りしてしまっている。

◎アニメや桜並木、牧野記念庭園などの良好な資源があるにもかかわらず、十分に活かされていない。

◎将来の大江戸線の延伸によって駅の利用者数が減少することが危惧される。



駅北口周辺の風景



北口タクシー乗り場付近



商店街の風景

北口地区のまちづくりを進めるにあたって、そのベースとなるキーワードを3つ掲げてみました

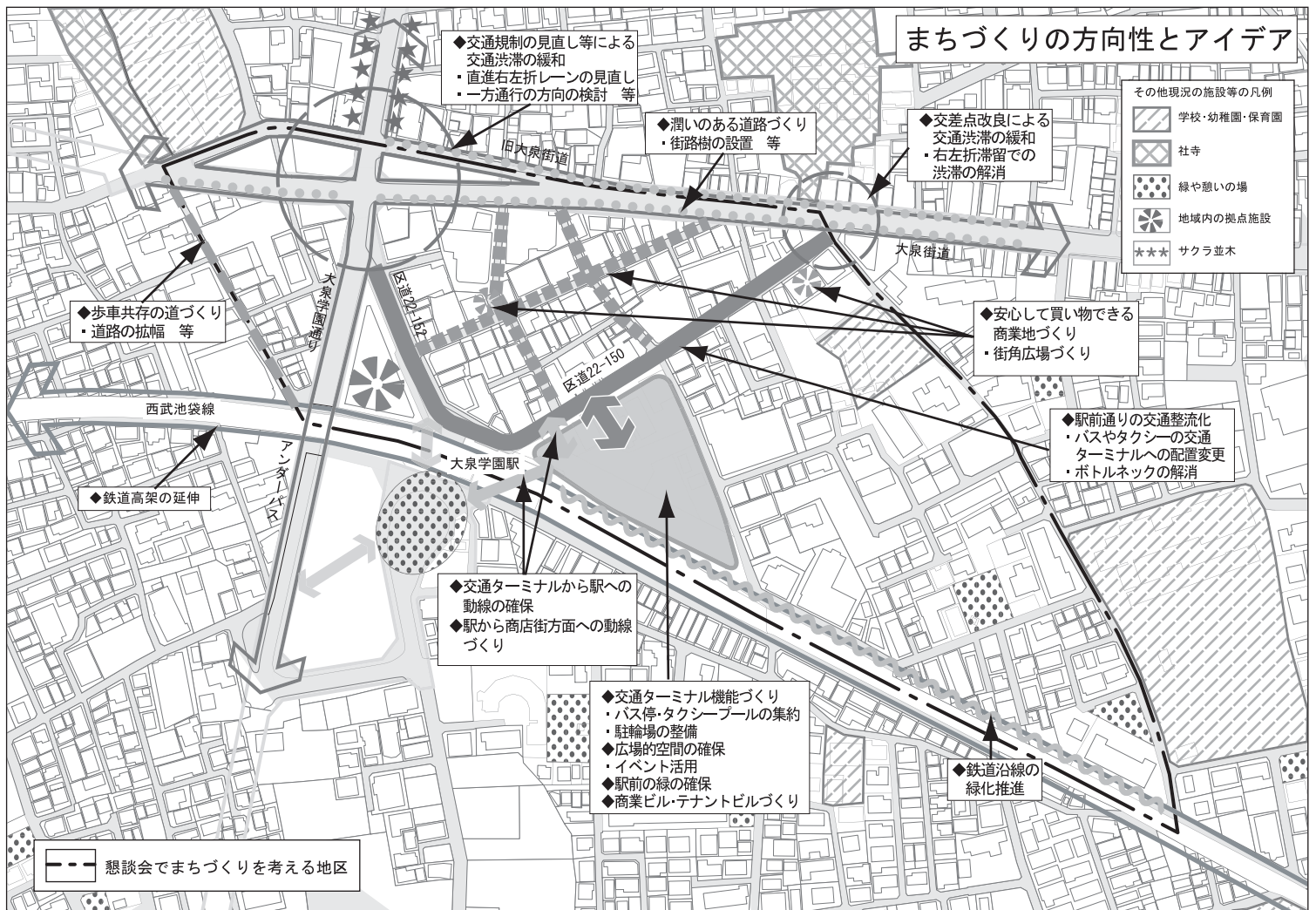
■大泉学園駅北口地区のまちづくりのベースとなるキーワード

アニメのふるさと

誰にも優しい安全・
安心なまち

行きたいまち・
行きやすいまち

まちづくりの方向性と
アイデアを出し合いました



■これからの進め方

まちづくり懇談会を月1回程度開催し、まちの将来像について話し合います。来春を目途に「(仮称)まちづくり方針」を作成していきます。その後、方針をもとに、地域のみなさんの意見を反映した「まちづくり計画」を作成し、計画の実現に取り組んでいきたいと思ひます。

みなさんには、まちづくりニュースを通して、懇談会の活動についてお知らせしていきたいと思ひます。

■会長から一言

大泉学園駅周辺は、再開発や道路整備により、街並みが劇的に変貌してきています。しかし、北口地区については、交通問題の解決や、地域の資源を活かした新たな魅力の創出など、まだまだやらなければならないことがたくさんあります。

今後とも、みなさんのご協力を得ながら、まちづくりを進めていきたいと思ひます。どうかよろしくお願ひ致します。

大泉学園駅北口地区まちづくり懇談会会長 加藤昭治



■大泉こぼれ話:シリーズ1…「大泉」の名の由来?

昔々、明治24年、現在の大泉、土支田地区にあった二つの村『樽橋(くれはし)村(旧小樽(こぐれ)村と旧橋戸村)』、『上土支田村』が合併。

そこで新しい村名を決めることになり、さまざまな案を出し合った所、『戸樽田』でどうだろうとなったのですが。当時一番小さな村、橋戸の「戸」が一番上につくのはおかしいと意見がでて大混乱になってしまいました。

そこへ当時の大泉小学校校長「関根雅楽蔵」から鶴の一声、『この村々はどれも井頭池を水源とする小井戸川(白子川)をはさんだ村、湧き水の絶えることがないよう、村がますます発展していくことを祈る意味で、一番大きい小樽の「小」と湧き水の「泉」をとり、「小泉」と書いて「おいずみ」とはどうか』と。各村民代表は満場一致で「小泉(おいずみ)」全員円満解決となった次第なのですが…。

村名決定を東京府に伝えにいくと、「うん、読み難い、何だか分り難い。」「間違えやすいから、小泉より、いっそ大泉」ということで、「大泉村」に決定しました。今も白子川の支流(暗きょ)に小泉橋の名があります。



旧大泉学園駅

ちなみに、「練馬」は

- ・関東ローム層の赤土をねったところを「ねり場」といった。
 - ・石神井川流域の低地の奥まったところに「沼」＝「根沼」が多かった。
 - ・奈良時代、武蔵国に「のりぬま」という街道の駅があった。
 - ・中世、豊島氏の家臣に馬術の名人がいた(馬を馴らすことを「ねる」と言った。すなわち「練り馬」)。
- (練馬区ホームページより抜粋)

◆お問い合わせ先

《事務局》練馬区 環境まちづくり事業本部

都市整備部 まちづくり第二担当課 齋藤、小美濃、今野

TEL 3993-1111 内線 8626

E-mail machi202@city.nerima.tokyo.jp